

目次

1 事例報告 就労支援の例

1. 事例報告 就労支援の例

高次脳機能障がいの症状は、日常生活では何とも無いのに、仕事になるとうまくできないなど、限定された場面で症状があらわれることがあります。今回は3つのケースについて取り上げ、困難が生じた場面と支援の例についてご紹介しますので、参考にして頂ければと思います。



<ケース1>集中力が続かない

Aさんは、フルタイムで復職しました。午前中は何とか仕事に取り組めるのですが、午後は疲れてしまい仕事が続けられない状態でした。

支援の例・・・ Aさんは、病院に復職後の様子を伝えました。病院から、職場の方へ高次脳機能障害の症状（注意障害、易疲労）の一つであることを説明しました。そして、仕事を短時間勤務から始める事を提案しました。



<ケース2>自分に高次脳機能障がいの影響は無い①

Bさんは復職しましたが、失敗が続き職場と相談し退職しました。再就職しましたが、やはり失敗ばかりでした。

支援の例・・・ Bさんは、病院に退職したこと、退職後の再就職が上手くいかないことを相談しました。病院から、地域の障害者職業センターについて情報提供しました。見学し職業相談、評価を行い、今苦手になっている事、仕事をするとき気をつけること等を確認し、再就職のため職業準備支援を受けることにしました。



<ケース3>自分に高次脳機能障がいの影響は無い②

Cさんは復職しましたが、失敗が続き退職しました。再就職をしましたが、再就職先でも失敗ばかりで、長く続く仕事がありませんでした。

支援の例・・・ Cさんは、病院に何の仕事にしても続かないことを相談しました。発症から3年が経過していたので、再評価することにしました。入院中から現在まで、仕事に戻れば前の通り何でもできると思っていたCさんですが、自分一人で仕事を探したり、仕事を長く続けたりする事が難しいという説明を受けました。本人に福祉的就労について情報提供しましたが、本人は、一般就労を強く希望しました。そこで、一般就労を目標に、福祉的就労を利用することにしました。精神障害者福祉手帳を取得し、再び働くための準備をすることにしました。



もうすぐ秋に近づき、涼しくなりますね…